

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局障害福祉部障害者支援課
評価対象期間	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市立到津ひまわり学園	施設類型	目的・機能		
			I	— ⑦		
	所 在 地	北九州市小倉北区下到津一丁目 8 番 8 号				
	設置目的	障害のある児童を日々保護者の下から通わせて、社会的自立生活へ向けての援助、学習の指導、健康管理その他の支援を行うことにより、障害児の生活及び福祉の向上に資することを目的としている。				
利用料金制		非利用料金制 ・ ☒ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制				
		インセンティブ制 有・ ☒ 無	ペナルティ制 有・ ☒ 無			
指定管理者	名 称	社会福祉法人北九州市福祉事業団				
	所 在 地	北九州市八幡東区中央二丁目 1 番 1 号				
指定管理業務の内容		児童発達支援センターの管理運営。 施設の維持管理。				
指定期間		令和 3 年 4 月 1 日～令和 1 0 年 3 月 3 1 日				

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント						配点	評価 レベル	得点
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み						50		45
(1) 施設の設置目的の達成						25	4	20
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。								
② 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。								
③ 利用者のサービス提供計画に基づき、適切に福祉サービスが実施されているか。								
[評価の理由、要因・原因分析]								
障害児通所支援	[参考]R2(更新前)	R3	R4	R5	R6	R7		
定員	50名	50名	50名	50名	50名	50名	50名	
利用者数	59名	57名	57名	58名	57名	58名	58名	
※ ・・・評価対象年度（以下、同じ）								
①・発達障害児の支援ニーズに対応するため、可能な限りの利用者の受け入れを行い、一人でも多く支援が行き届くよう障害児通園支援の体制を維持している。								
・通園バス2台体制による運行で利用者の利便性を高めており、保護者の状況に応じて極力自宅近くで乗降できるよう配慮することで負担軽減を図っている。								
外来相談	[参考]R2(更新前)	R3	R4	R5	R6	R7		
目標値	180件	180件	100件	100件	60件	60件	60件	
実績	176件	99件	84件	58件	63件	57件	57件	
※外来相談は、令和5年度途中から実施方法を見直し、個別相談から2～3名のグループ相談に変更している。								
短時間通園	[参考]R2(更新前)	R3	R4	R5	R6	R7		
目標値	1,650件	1,650件	1,650件	1,650件	1,650件	1,650件	1,650件	
実績	1,142件	1,641件	1,560件	1,588件	1,659件	1,389件	1,389件	
保育所等 訪問支援	[参考]R2(更新前)	R3	R4	R5	R6	R7		
目標値	160件	160件	160件	160件	160件	160件	160件	
実績	127件	127件	142件	144件	177件	207件	207件	
・外来相談は減少しているが、これは保護者の希望による保育所や幼稚園等へ来園支援を行う保育所等訪問支援が増加したためであり、地域の児童発達支援事業の中核である児童発達支援センターとしての役割を果たしている。								
・短時間通園は、登録人数の減少により目標値を下回ったが、発達段階、実年齢によ								

- り11グループに編成し、保護者と一緒に子どもの特性を共有しながら、困っていることへの相談や対応など手厚い支援を行っている。
- ②・児童発達支援センターの認知度を高めるため、大学等の学生向けのパワーポイントを作成し、他障害児者施設職員と合同で周知を図っている。
- ・園の道路沿いに面した窓ガラスに「世界自閉症啓発デー」などのポスターを掲示し、近隣の方への周知を図っている。
- ③・利用者に対してもサービスの計画を明確に示しており、個々の特性に合わせた支援を行っている。また、子どもの発達に関する説明や子どもの療育に関する目標、目的、方針などの説明を行っている。
- ・家族の支援について、保護者勉強会を令和7年度は7回開催している。内容は年度当初に保護者会で学習したい内容の希望を取り、調整のうえ、それに合わせて講師を招くなど、可能な限り興味・関心の高い内容を実施している。

== 「施設の設置目的の達成」に関する評価まとめ ==

- ・発達障害児への高い通所支援のニーズにおける積極的な受け入れや、利用者の個々の状況に合わせた柔軟な対応などの取組みは、高く評価できる。
- ・また、短時間通園や外来相談の令和7年度実績は目標値に達していないが、保育所等訪問支援の実績は、目標値を超える件数を維持しており、施設の設置目的を十分に達成していることから、評価「4」とする。

(2) 利用者の満足度

- | | | | |
|--|----|---|----|
| ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 | 25 | 5 | 25 |
| ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 | | | |
| ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 | | | |
| ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 | | | |
| ⑤ 利用者の質の向上を目的としたボランティア等の活用が行われており、その効果があったか。 | | | |
| ⑥ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 | | | |

[評価の理由、要因・原因分析]

	[参考]R2(更新前)	R3	R4	R5	R6	R7
目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
満足度平均	98%	99%	99%	96%	98%	99%
スタッフ接遇	99%	100%	99%	98%	99%	100%
情報提供	99%	99%	99%	95%	100%	100%
サービス内容	97%	97%	97%	95%	98%	99%
施設関係	98%	100%	98%	98%	97%	100%
緊急時	100%	100%	100%	94%	98%	100%

- ①・アンケート調査の結果について、満足度平均が99%と利用者の満足度は非常に高いものとなっている。
 ・「こどもに居場所ができました。毎日本当に嬉しくて楽しそうで、私は救われました。」や「いつも親切にしてくださる先生方ばかりで感謝です。ありがとうございます。」といった感謝の声が多く寄せられており、利用者の満足度の高さがうかがえる。
- ②・厚生労働省の児童発達支援ガイドラインに基づいてアンケートを実施しており、アンケート結果については、職員間で協議し実施可能なものから取り組んでいる。
 ・意見箱の設置や個人及びクラス懇談会、父母の会総会、役員会、活動報告会などを通じて保護者から意見や要望など聞く機会を設けて、毎日の朝礼や月1回の職員会議と指導会議で情報の共有を図り、要望や相談などについて速やかに対応するようにしている。
- ③・苦情に対しては、契約時に受付手順の説明や解決責任者の掲示をし、苦情があった場合には速やかな対応を行うよう努めている。
- ④・保護者への情報提供として、ホームページ（ブログ）更新（年26回）し、更新した際は携帯アプリ「コドモン」で保護者に周知している。また、毎月「園だより」を発行し、グループ活動のお知らせを年10回発行している。
- ⑤・外部講師を招いてのミュージックケアを令和7年度は、各クラス2回、計10回実施に加えて、職員により日常の活動や行事でもわらべうたなどを実施している。
- ⑥・例年、家族の参加を促進するため、父親や兄弟が参加しやすい土曜日に行事（運動会・夏のお楽しみ会、保育参観など）を開催している。令和7年度は、夏のお楽しみ会を親子参加で実施、運動会は全園児で午前中のみの実施、遊ぶの会は二日間に分けて実施、保育参観は土曜日にクラスを分けて実施している。
 ・社会参加のため、到津の森公園、山田緑地、もりのいえ、関門海峡ミュージアムなど公園・公共施設への親子遠足や、小池学園での芋掘り体験などを行っている。
 ・家族の支援について、家庭訪問や懇談会、給食試食会、そのほか保護者勉強会を開催。就学に向けた支援としては、保護者への説明会と学校見学、保育所等訪問支援を利用する保護者との懇談会による情報共有などを実施している。
 ・園独自のアンケート実施や意見箱の設置、従来からの連絡帳での保護者との日々の情報交換に加え、携帯アプリ「コドモン」の活用を取り入れたことでお知らせや行事の出欠等が迅速になり、利便性の向上に努めている。

== 「利用者の満足度」に関する評価まとめ ==

- ・アンケート結果の「よい」、「まあまあよい」を合わせた割合は、目標値（90%）を大きく超えて平均99%と、利用者の満足度は非常に高く、評価「5」とする。

2 効率性の向上等に関する取組み	15		9
(1) 経費の低減等			
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。	15	3	9
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理			

者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。						
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
消費電力	[参考]R2(更新前)	R3	R4	R5	R6	R7
実績	33,058kwh	31,337kwh	31,864kwh	29,365kwh	30,487kwh	29,400kwh
水道光熱費	[参考]R2(更新前)	R3	R4	R5	R6	R7
実績	1,916 千円	1,937 千円	1,954 千円	1,632 千円	1,826 千円	1,790 千円
①・障害のある児童にとっては、天候の違いや温度変化などの環境変化にすぐに適応することが難しい場合などあり、特に夏季においては熱中症防止のため室温の上昇には特に注意する必要がある。経費削減に向けた取組みの効果がなかなか出ないこともあるが、こまめに温度調節や電源の切入を徹底している。 ②・清掃、設備保守点検等については、福祉事業団が一括契約を行うことで、経費の低減が図られており、業務は適切に行われている。 == 「経費の低減等」に関する評価まとめ == ・節水・節電の取組みにより、水道光熱費は前年度と同程度を維持している。 ・指定管理者の一括契約等による経費節減や、節水・節電意識の高める取り組みを行っている。 ・以上の状況から、市の求める一定の水準を満たしているため、評価「3」とする。						
(2) 収入の増加						
① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。		—	—	—		
[評価の理由、要因・原因分析]						
・提供するサービスは法定であり、報酬単価も国基準であるので、収入増加の工夫はできない。						
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み					3 5	2 1
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況						
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。					1 5	3 9
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。						
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。						
④ モニタリングの結果、施設の維持管理が適切に行われていたか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
①・人員配置については指定基準に応じた人員が配置されており、施設の維持管理は適切に行われている。						

- ②・職場内研修（新人・救命救急・人権など）実施や、職場外研修（業務・階層別など）及び自主研修など、職員の資質向上に努めている。また、指定管理者は複数の児童発達支援センターを運営しており、同法人の施設間で研修を行い、職員間の情報共有とスキルアップに取り組んでいる。
- ③・保育所・幼稚園・特別支援学校・市民センターとの交流や、保育所への講師派遣など地域との交流や連携に努めている。
- ・夏のお楽しみ会や運動会の際、各学校からの実習生やボランティアの受入れを実施している。

== 「施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況」に関する評価まとめ ==

- ・研修等による人材育成や職員の派遣等による地域連携を積極的に実施しており、市の求める一定の水準を満たしているため、評価「3」とする。

（２）平等利用、安全対策、危機管理体制など

① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	2 0	3	1 2
② 施設の利用者に対する身体拘束及び虐待等の防止策が適切に実施されているか。			
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。			
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。			
⑦ 衛生管理及び感染症防止への対応が適切であったか。			
⑧ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			

〔評価の理由、要因・原因分析〕

- ①・「事業団個人情報規定」「個人情報保護方針」に基づき管理徹底を行っている。
- ②・人権の尊重や身体拘束及び体罰の防止に向けて、「園児との接し方チェックリスト」を作成し、毎月クラス毎に態度や対応などの相互評価を実施している。
- ・人権研修の実施や児童虐待対応リーダー養成研修に参加、虐待防止委員会と身体拘束等防止委員会をそれぞれ年2回実施するなど、人権の尊重、身体拘束及び体罰等の防止に努めている。
- ⑤・遊具・設備を月一回点検するほか、「ヒヤリハット」を毎日朝礼で報告して対応を検討し、2ヵ月後にはその対応の検証を行っている。
- ⑥・防犯対策として、小倉北警察署指導による不審者対応訓練及び園児の避難誘導訓練を実施しており、また防犯カメラの設置や扉等の施錠の徹底など、防犯対策強化の取組みを行っている。
- ・様々な事態を想定した避難訓練（火災：毎月、地震：年2回、竜巻：年1回、水害：

年1回、バス事故：年4回）を実施し、危機管理体制として、施設と事務局間で災害時の緊急連絡網、動員計画を作成している。

- ⑦・消毒液を玄関やトイレと各部屋に設置して消毒や手洗いを励行し、食中毒防止のため衛生管理に努めている。
 - ・感染症発生時には「感染防止マニュアル」に従い速やかに対応するとともに、保護者に対して文書で知らせている。
- ⑧・令和7年度は、通園バスに関して運行中のインシデントが確認されたため、「通園バス運行時の安全マニュアル」に従い、利用者への安全対応や関係各所への報告が適切になされていた。また、再発防止策も策定され、確実に実施されている。

==「平等利用、安全対策、危機管理体制など」に関する評価まとめ==

- ・利用者の安全確保、防災対策、個人情報保護等、市の求める一定の水準を満たしているため、評価「3」とする。

【総合評価】

合計得点	75	評価ランク	B
【評価の理由】 ・事業計画に沿って、施設の適切な運営管理に取り組んでおり、利用者の満足度も非常に高いものとなっている。利用者に対してもサービスの計画を明確に示しており、個々の特性に合わせた支援を行っている。 ・アンケート結果では、スタッフの保護者に対する言葉遣いや問い合わせ対応、児童への声かけなどが特に高く評価されており、スタッフの児童や保護者に対する接遇の質が高いことがわかる。また、子どもの発達に関する説明や子どもの療育に関する目標、目的、方針などの説明も高く評価されている。 ・発達に遅れや障害がある子どもたちの保護者は、漠然とした将来への不安や育児の悩みを抱えており、その悩みや不安に対して、寄り添い、きめ細かいサポートを行っていることが、利用者の高い満足度につながっていると判断される。 ・職員の資質及び能力向上のための研修実施、情報管理の徹底、施設管理や節減対応などに努めている。 ・地域の学校や市民センターとの交流、職員派遣による支援や実習生の受入れなど、地域との交流活動や支援など活発に行っている。 ・インフルエンザなどの感染予防を図りつつ、日常の事故防止や安全対策にも取り組み、質の高いサービスの提供を継続している。			
【今後の対応】 ・施設の管理運営を適切に行い、利用者へのサービス向上に努めるとともに、家族への支援や地域及び関係機関との連携を積極的に行うなど、今後も地域における質の高い障害児支援に取り組むことを期待する。 ・近年、児童発達支援事業のニーズが増加しており、特に児童発達支援センターはどの施設も定員を超過している現状である。地域の保育所等訪問による専門的助言や、地域の小規模事業所への助言や支援を行うなど、児童発達支援の中核施設として機能を発揮することを期待する。			

- ・ 到津ひまわり学園の分析だけでなく、地域の支援体制に対しての分析も実施しており、地域の障害児支援の中核施設として問題意識をもって取り組んでいることがわかる。地域の抱える障害児支援の問題に対して、地域と連携して解決していくことを期待する。

[北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見]

適正に評価されている。

今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

【評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

【総合評価】

- A：総合評価の結果、優れていると認められる
(合計得点が80点以上)
- B：総合評価の結果、やや優れていると認められる
(合計得点が70点以上80点未満)
- C：総合評価の結果、適正であると認められる
(合計得点が60点以上70点未満)
- D：総合評価の結果、努力が必要であると認められる
(合計得点が50点以上60点未満)
- E：総合評価の結果、かなりの努力が必要であると認められる
(合計得点が50点未満)